琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

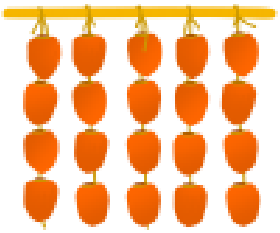
アトリエ琉游舎だより 14号

2017年11月22日発行

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3

琉游舎カレンダー
ができました

月	火	水	木	金	土	日
11月27日	28 読書会 １３：３０～	29	30 映画会 １３：３０～	12月1日	2	3
4	5	6	7 映画会 １３：３０～	8	9 詩話会 １３：３０～	10
11	12 読書会 １３：３０～	13	14 映画会 １３：３０～	15	16	17
18	19	20	21 映画会 １３：３０～	22	23 天皇誕生日 休	24 休
25	26 読書会休み 次回は1月9日	27	28	29	30	31
1月1日 新年祝禱会 ０：００～	2	3	4	5	6	7



・12月の第４週の読書会はお休みいたします
・12／28は映画会はありません
・12／23.24は閉まっていることがあります
・1／1の新年祝祷会は除夜の鐘とともにおこないます

★次回読書会は 11月28日（火）13時半から

・初回に戻って妙法蓮華経観世音菩薩普門品第２５の読誦と解説を行います。観音経として親しまれ、日本ではもっともよく読誦されるお経の一つです。
・前回参加できなかった方もぜひこの機会に一緒に観音経を読誦してみませんか。

★第五回詩話会は 12月9日（土）13時半から

・今回は詩人辻征夫の詩を読みます。
・2015年には岩波文庫にも収録された現代抒情詩人の第一人者の詩です。
・午後のひと時をお茶を飲みながらお過ごしください。

今年の映画会スケジュール

11/30 木	13時半	黒水仙（100分）	デボラ・カー主演のイギリス映画。伝道尼僧としてヒマラヤ僻地に赴任した5人の尼僧の自らの信仰に疑問を持ち、悩みながらも伝道に努める愛と葛藤の物語。
12/7 木	13時半	長屋紳士録（72分）	小津安二郎監督。戦後焼け跡に家がポツポツと建ち始めた頃、ひょんなことから一人の少年を育てることになった女性と少年の物語。戦後すぐの焼け野原の東京の景色も必見。
12/14 木	13時半	学校Ⅱ（122分）	山田洋次監督,西田敏行主演。「学校」シリーズの第2作。北海道の養護学校を舞台に新人教師や熱いハートを持った教師と障害を持った生徒たちの成長を見つめていく映画。
12/21 木	13時半	欲望という名の電車（122分）	ヴィヴィアン・リー主演。テネシーウイリアムズの名作戯曲の映画化。欲望という名の電車に乗ったその女はどこへ行くのか。アカデミー賞をはじめ多くの主演女優賞を受賞。

琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

狂言綺語・・・ロゴスと行いのあいだ

山歩きをこのところよくします。車を置いて登り初め、頂上でおにぎりを食べてまた戻ってくるとおおよそ4～5時間。コリーナから車で1時間前後の山なので高くても2000m弱、低ければ500m程度です。低ければ楽、高ければきついという事でもありません。登りの30分間ずっと急登という低山もあります。登りで転ぶことはありませんが、下りでは転ぶことが多々あります。翌日筋肉痛のこともあれば、全くなんともないこともあり、「頂上はまだかまだか」と思って歩いているときもあれば、「あれもう着いちゃったの」という時もあります。それが山の険しさや歩く距離やエネルギーの消費量に比例しているわけでもないようです。不思議ですね。だから山歩きはくせになります。

前回「風景を身にまとう」について書きはじめてみましたが、ちょっと抽象的な話になってしまったと反省しています。私は常日頃、社会の論理（ロゴス）とその対極の観る（行い）とのあいだで右往左往の日常生活を送りながら、なんとかやすらぎのところにたどり着きたいと考えて生活しています。そこで前回はこころを非武装中立にするのも一つの方法かなと書いてみました。もっともらしい言葉ですがどうやるかの実践方法がありません。「こころの非武将中立」は「あるがままに観る」とか「風景を身にまとう」とか「全てのいのちと一体化する」と言うことの言い換えに過ぎないのでしょう。私は評論家や学者ではありません。僧侶は実践方法を示しそれを実践して初めて僧侶となります。大げさに聞こえるかもしれませんが「はじめに行いありき」に忠実に、私も「行い」の中でその実践方法を示していかなければならないのでしょう。

山歩きには「一気に」とか「たちまちに」ではなく「だんだんに」とか「いつのまにか」と言う言葉が似合います。一気に下ろうとするとたちまち転びます。下りほど足下を見て地面を踏みしめないと、バランスを失い翌日の筋肉痛につながります。足をだんだんに前に繰り出せば、ゆっくりでも必ずいつかは目的地に着きます。気がつけば頂上です。一歩一歩地面に足を置き続けていくうちに、いつの間にか鳥のさえずりや木々のざわめき、風のささやきも意識からなくなり、何も考えず、何も感じず、何もない私が、何もないまま足を前に踏み出しています。それを私でない私が観ることができたら、行いが風景となっているはずです。このような、風景と一体化し風景そのものになる山歩きができれば、風景を身にまとうことを実践できたことになるのでしょう。

ところが実際はひやりとしたり、足を滑らしたり、転んだり、いつもと違うところが筋肉痛になったりと一体化するどころか風景と格闘しているのが実情です。駐車場にたどり着いたら、「ああ今日もしんどかった。早くビールが飲みたい。でも、車を運転しなければ」と家路をいそぐ。車中ではいつの間にか「次はどこに行こうか」と来週の山行きに思いを巡らす。この繰り返しです。格闘の後にまた新たな格闘を望むなんて、たとえ山が相手であろうとも自ら望むものではないような気がします。私は好戦的・被虐的な性格ではないつもりなので、だからこれは「格闘」ではなく「対話」と呼びたいと思います。自分に相手と対話するだけの心持ちも力量もなければ、本人は対話のつもりでも、はた目には相手と言い合い自分自身と格闘しているように見えるようなものです。自分が気づかないだけで、はた目からは滑稽に見えるでしょう。不謹慎かもしれませんがドナルドさんとジョンウンさんの『対話』が自分自身を自ら罵って自らと滑稽な『格闘』をしているように感じるのは私だけでしょうか？

しかし私はその格闘を繰り返すことでいつかは必ずそれが対話に変わっていくものと信じています。格闘という対話を通して相手を感じ、相手を受け入れ、相手の一部となる。言葉（ロゴス）の格闘から始まりその繰り返しの中から対話という行いが生じてくるのではないでしょうか。私のささやかな山歩きも格闘を繰り返すうちに、山道の岩や木の根や落ち葉と自分の足裏の距離が縮まり、対話が始まります。目や耳や鼻も、風や鳥や木々と対話するようになり、いつの間にか風景全体と対話をし、その対話すら意識することがなくなれば、いつのまにか風景を身にまとっている。一瞬でも風景と一体化出来たらそこがやすらぎのところです。その瞬間を少しでも味わいたいがために、また人は山歩きして風景と格闘（対話）し、そしてその繰り返しの行いがやがて風景となるのでしょう。

今回はロゴスと行いのあいだに格闘と対話を仮定してみました。
この仮定が実践方法として有効かどうかは行いあるのみです。
というわけで来週末また山歩きに行こうと思います。

それではまた次号でお会いしましょう。（出琉）

琉游舎：戸井　出琉・恭子
お問い合わせ先：*0287-53-7848　08033508152*
矢板市大槻2319－17コリーナ矢板C－８５０
アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3